

NPO法人

久喜の自然を愛する会

会報

NO1 (通算23) 2014年12月

会のモットー

- 1 足元から自然を学ぼう
- 2 ^{いま} 現在 ある自然を次の世代に残そう

活動の記録 (写真版)

本年度第2回野草観察ふれあいウオーク吉羽天神

2014年6月29日



宮代運動公園駐車場 26名



吉羽天満宮付近ーヤブカンゾウも咲いてます



これはミゾコウジュです



ザクロソウ



カワラナデシコ



ハンゲショウ



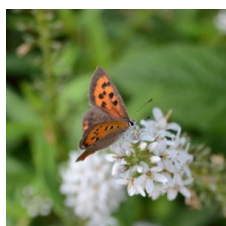
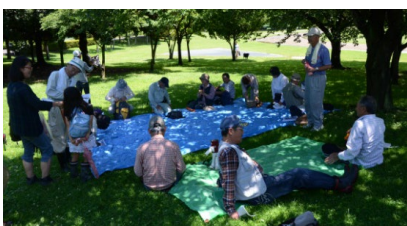
イヌコモチナデシコ



イチョウウキゴケ



ネジバナ



ふれあいウォーク「くりはし」

2014年10月6日 雨天のため中止

NPO法人久喜の自然を愛する会創立10周年記念式典

2014年11月3日 ふれあいセンター



記念撮影

祝

NPO 法人久喜の自然を愛する会
代表理事 藤浪 康義 様

創立10周年記念式典の開催にあたり、心からお祝い申し上げます。本式典のご盛會を祝しますとともに、ご参集の皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成26年11月3日

久喜市長 田中暄二

市長からのメッセージ



来賓の皆様



藤浪代表による「創立10周年の歩み」説明



長須先生による記念講演「久喜のトンボと自然」

祝賀会

2014年11月3日

華屋与兵衛



2014年12月6日
 埼東よみうり

喜 地道な活動続け10年
 久 久喜の自然を愛する会

久喜市のNPO法人「ク、生物モニタリング」が主催する「久喜の自然を愛する会」(藤原義典)は、創立10周年を迎え、11月3日(日)に久喜市立中央公民館で「久喜の自然を愛する会」の10周年記念大会を開催しました。久喜市長の挨拶で、藤原会長は「久喜の自然を愛する会」の活動の歴史を振り返り、10年間の軌跡を語り、今後の活動の方向性を示しました。藤原会長は「久喜の自然を愛する会」の活動の歴史を振り返り、10年間の軌跡を語り、今後の活動の方向性を示しました。藤原会長は「久喜の自然を愛する会」の活動の歴史を振り返り、10年間の軌跡を語り、今後の活動の方向性を示しました。



久喜の自然を愛する会の皆さん

ふれあいウォーク「館林」

2014年11月11日

(館林市野鳥の森)



(ブルドックソース館林工場)

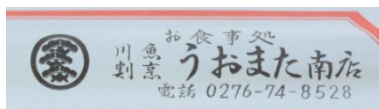


防塵服を着ての記念撮影

(田中正造記念館)



(昼食)



(埼玉県環境科学国際センター)



埼玉県環境科学国際センター前で記念撮影



島田研究員の説明を受ける



アオダイショウの抜け殻

野草保護活動

東 側

6月 6名 雨天のため中止



7月 8名



8月 10名



9月 8名



西 側

6月 雨天のため中止

7月 7名



8月 8名



9月 7名



10月 10名



10月 8名

生き物モニタリング調査

11月 8名



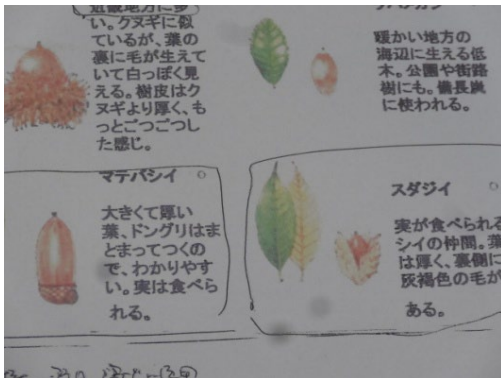
放課後子供教室

9月8日 東鷲宮小学校





9月29日 東鷲宮小学校

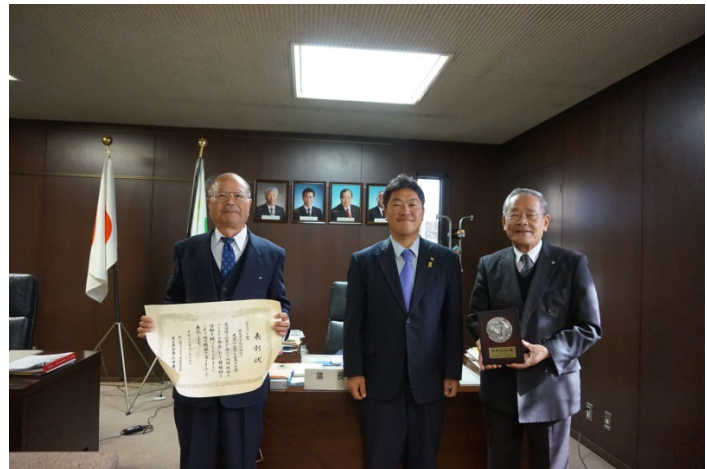


10月4日 本町小学校



シラコバト賞受賞

2014年11月14日 (県民の日)

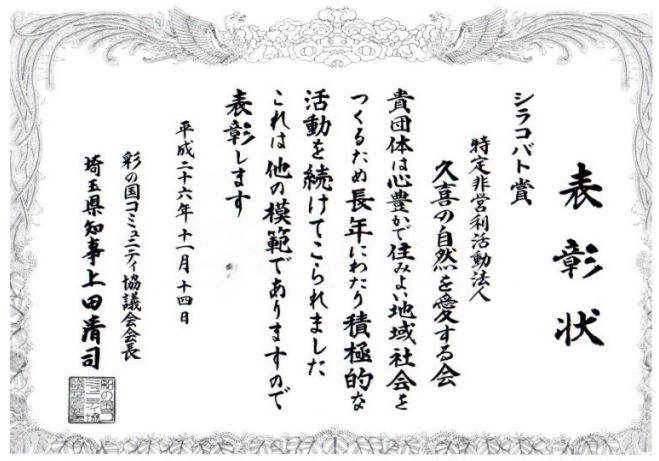


久喜市議会議長室

2014年11月14 授賞式

県シラコバト賞受賞

久喜の自然を絶滅危惧種の野草保護愛する会が、住み良い地域社で野草の保護活動をしている会の実現のために活動している個人・団体に贈る本年度の「県シラコバト賞」も受賞した。藤浪義康代表理事(71)は「自然環境の保護に力を入れてきたその成果」と話した。藤浪代表理事は定年退職後に市民大学へ進んだ。野草に興味を持った在学5人が中心となり準備を進め、前身となる「久喜自然観察クラブ」を立ち上げた。2008年に「久喜自然愛好会」に改称。13年1月に法人化した。発足当時のメンバーは20人。今では50代から80代の66人で取り組む。主な活動場所は、久喜富浦公園北側を流れる備前堀と備前堀に採れた中土手、吉羽地区を流れる青毛堀と葛西水の合流地点にある野草保護地の二カ所。中土手ではヤブカンゾウの群生を保護している。野草保護地にはオミナエシ、オグル大、フジバカマなどの絶滅危惧種やそれに近い野草を保護。成果は現れてノジトラノオとクマツヅラが増えているという。ほかにも一般対象の触れ合いワークショップ、野草写真展、県民参加の生き物モニタリング調査などしている。初回から21号までの会報も手掛けてきた藤浪代表理事は「現在、いまある自然を次の世代に残すのが会のモットーであるように、20年30年と地道な活動を続けたい」と話した。(新井千鳥)



2014年11月19日 埼玉新聞

巻頭言

楽しみながら自然環境保護にたずさわろう

代表理事 藤浪康義

11月3日（文化の日）に本会の10周年記念式典が挙行されました。市長（代理）様を初め、市議会議員様（本会会員の井上忠昭氏）、教育長様にもご参列いただき、参加者42名と盛況でした。

11月14日の県民の日には埼玉会館において「しらこぼと賞」を受賞しました。

春には、これまでの全会報を集めた集約版を発行しました。

現在本会は、久喜市の自然環境保護団体として益々その地位を高めつつあります。

そこで私は会員の皆さんに、次の2つの事を呼び掛けたいと思います。

第1は、各自が自分の力量を自分なりに高めよう、スキルアップをはかろうという事です。

ふれあいウォークの観察会で、必ず出てくる感想に「野草の名前はその度に忘れてしまい覚えられない。」というのがあります。これを繰り返して10年、今では各人が相当な蓄えを持っているではありませんか。力量は年々高まっているように思えます。各人の力量は会の力量の高まりでもあります。そしてこの力量は会の宝物です。先輩は後輩に伝え、更にジャンルを広げていきます。

第2は自然環境保護の意識を広めようという事です。本会で野草をはじめ樹木や昆虫や鳥や様々な知識を学びますが、こういう知識は持っていればそれ自体楽しいものです。野道を歩いていて野草や樹木等の名前を知っていれば、歩く楽しみも倍になります。だがそれを何かの形で役立てることができれば、知識は更に本物になるといえるのではないのでしょうか。それが広い意味での自然環境保護につながるものと思います。本会の活動の柱は「ふれあいウォーク」ですが、毎月の野草保護活動、野草写真展、野草調査、ゆうゆうプラザ、七草がゆの会等々、これらの全てが自然環境保護につながっています。今後は更に多様な形態で活動を展開し、広めていくとい事がもとめられていると言えるでしょう。

幸いに本会の活動は、初心者は初心者なりに、知識のある人はある人なりに楽しみかつ力量を発揮できるのが特徴であり、長所でもあります。楽しい会の活動がそのままに自然環境保護という社会貢献につながっています。

この活動は、更に10年後、20年後に継続して行きたいものです。

★★活動の記録★★ 2014年前半～2014年後半

★野草観察ふれあいウォーク「吉羽天神」2014年6月29日 9時～

心配した雨は上がり、濡れた宮代運動公園駐車場で記念撮影をして観察会はスタート。備中岐橋の手前で咲いていたセイヨウタンポポを指さし、長須先生より「昔はコーヒの代用品として飲んだ。野菜として食べると葉も花もおいしい」との説明がありました。橋の手前でオハグロトンボとシオカラトンボに似たコシアキトンボを見ることができ。橋を渡った右側のたんぼで、いつも見ることができカブトエビは姿を見せなかった。

吉羽天満宮まで来ると青空がのぞき出し、絶好の観察日和となった。諏訪神社と圏央道の中程のたんぼに絶滅危惧種のミゾコウジが咲いている。長須先生より、「ミゾコウジは水を求めて、移動して生える」、「薙刀のように反り返るナギナタコウジもある」との説明がありました。

会の保護地で、絶滅危惧種のハンゲショウ、オグルマ、クマツヅラ、カワラナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、ノジトラノオ、ミゾコウジを見ることができた。又、ワレモコウ、センニンソウ、ヒヨ

ドリジョウゴ、オカトラノオも健在でした。

古利根川と中落堀川の合流を経て中落堀川を上流に向う。備中岐橋を渡り宮代に戻る。圏央道工事現場脇を通り川沿いに宮代運動公園に向かう。右岸側のたんぼに今回観察会の目玉であるイチョウウキゴケを見ることができた。

宮代運動公園に戻り、木陰であつまり、恒例の自己紹介と一言スピーチを行う。長須先生からは、参加者の質問に答えての帰化植物のお話がありました。(詳細は次項の当日出席者の主な感想を参照してください。)

藤浪代表より次の挨拶があり、観察会は無事に終了しました。カブトエビとイチョウウキゴケを今回の目玉にしようとしていたが、カブトエビは、たんぼの水が増え過ぎ、どっかへ行ってしまった。NPO法人久喜の自然を愛する会では野草保護を行っています。興味がある方は参加してください。次回のふれあいウォークは10月5日の日曜日に栗橋で行います

《 当日出席者の主な感想 》(文責会田)

参加26名 会員19名 一般7名

- 34 田中さん 今日もいろいろたくさんあった。一つだけ、ヨモギは子供の頃、ヨモギもちで食べた記憶がある。長須先生からモグサがヨモギからできていることを教わり勉強になった。
- 25 長谷川さん イチョウウキゴケがよかった。久喜で発行している本で久喜は苔の宝庫だ。今は沼がなくなり苔が生きる場所が無い苔砂漠になった。イチョウウキゴケが水に浮いているのを見るのは初めて。ゆうゆうクラブをして、すこしづつ馴染んでいる。図書館で児童書をみて勉強中です。
- 45 大槻さん これを覚えたと言えればよかったがすべて忘れた。又参加させてもらいたい。
- 46 山中さん 今日は小学生が参加していた。自分の孫のようだ。楽しく歩かせてもらった。
- 大塚里英(一般) 昔雑草は興味がなかった。子育てするようになり博物館に行くようになり、野草がこんなにたくさんあり、種類の違いにびっくり、野草を見るのが楽しくなった。子供も興味を持ったのではないかと。又参加したい。
- 7 山口さん 体の具合がわるく参加していなかった。何とか回復した。今日はたくさん見せて貰った。カラスノエンドウがカラス野えんどう、ただし読み方を教えて貰った。
- 33 伊藤さん 外来種が多いのにびっくり。外来種は何年ごろから日本に入り込み全国あちこちせいそくするようになったか?今後生活していく上で影響はどのようになるか長須先生に説明して貰いたい。
- 11 和泉さん 歩いて来た。暑くなったので一枚脱いだ。今日は青空が見えます。皆さんと一緒にいられてありがたいです。今は緑がきれいです。又お会いできたらと思います。
- 50 早坂さん 丁度一年前に加入した。まる一年になります。保護地の手入れをしました。びしょびしょになり、いい思い出になった。このままつづけます。
- 49 木下さん 一年になります。保護地の花がきれいに咲いたので感動した。萩の花が咲いていたのにびっくり、今頃さくのかと!これからも参加します。
- 37 簾内さん 今日はイチョウウキゴケです。見れば見るほど銀杏の形になっている。それと橋のたもとのイヌコモチナデシコです。宮代でホテルの会をやっている。里親の会で独自に家がかい、6月に幼虫を放流している。今年は7500匹。来年も放流するので見に来て下さい場所は宮代の新しい村です。
- 54 津田さん ギシギシ4種類の区別を長須先生より教えて貰ったが私には分からなかった。ハンゲショウ高校の頃庭に咲いていた。いつか見たいと思っていた。今日たっぷり見られよかった。あり

がとうございます。

青木立世（一般）ハンゲショウを市の広報で見て参加した。野草保護地のノジトラノオが素晴らしいと思った。又参加したい。

森島孝子（一般）春菖蒲に行ってみようと思ったので参加しました。クマツヅラを始めてみた。ハンゲショウ、オカトラノオは家にもあるが野の群生がよかった。

長谷川孝夫（一般）最近草取りをするときこれは何かと思って手が止まりはかどらなくなった。

長谷川幹子（一般）備前堀でギシギシを教わった。エゾノギシギシ、アレチギシギシを教わった。一つ一つ覚えていきたい。

16 松本さん ふれあいウォーク「吉羽天神」で見られる野草一覧の中で、イヌホウズキとなっているのはアメリカイヌホウズキですので、訂正します。今日の観察会ではザクロソウ、何回か通っているが気がつかない。今日の収穫です。

17 清水さん いつもはこの時期ではないので仙人草をいつもよく見ていた。今日は違う種類の野草をたくさん見た。アメリカが付いている野草が増えたのが感想です。

32 平尾さん これまで三回きているがオカトラノオ、ノジトラノオくらべて分かった。よく見たら葉の大きさが違う。

鈴木さん 一つだけネジバナが咲いているとは思わなかった。らん科の植物が咲いているとは思わなかった！

佐藤みゆき（一般）かえるとかが見えて楽しかった。菖蒲町から来ています。

1 長須先生 玉虫が飛んできた。皆さん玉虫を分かると思います。帰化植物は明治になってか日本になくて外国からきて繁殖した植物を帰化植物と言った。明治以降史前帰化植物といった。戦後アメリカから来たのが大半。シロツメクサは江戸時代に来た。ガラス細工を輸入した時に壊れないようにシロツメクサをつめた。それが広まった。物についたり人についたりして港、飛行場から広まった。鉄道草ヒメジョオンは鉄道に沿って広がった。帰化植物は史前帰化植物（江戸時代以前）と新帰化植物があり、明治時代には植物に帰化をつかっていかに論争があった。

2 藤浪代表 長須先生から外来種の話をももらった。カブトエビ、イチョウウキゴケと野草保護地の花を二つの目玉と思っていた。水が増えてカブトエビがみられなかった。イチョウウキゴケはあちこちで見えた。野草保護地では絶滅危惧種を保管している。

以上

《 当日の主な野草 》

アゼナ、コナギ、イチョウウキゴケ、ヨモギ、カモジグサ、アキノノゲシ、オカトラノオ、アレチギシギシ、メリカイヌホウズキ、カモジグサ、アオカモジグサ、ヒメジョオン、イヌコモチナデシコ、ガガイモ、ヨウシュヤマゴボウ、セイバンモロコシ、エノコログサ、ナガバギシギシ、シロザ、ミチヤナギ、エゾノギシギシ、ヒヨドリジョウゴ、ヤブカンゾウ、カナムグラ、アオツヅラフジ、イシミカワ、キレハノブドウ、アカネ、アゼナルコ、カタバミ、ツユクサ、エノキグサ、コヒルガオ、カラスノエンドウ、ミゾコウジュ、ユウゲショウ、マメグンバイナズナ、イヌムギ、オオバコ、チチコグサモドキ、ハキダメギク、ウキクサ、ハンゲショウ、ノジトラノオ、ミズヒキ、クマツヅラ、カニクサ、ニガクサ、オオイヌノフグリ、ギシギシ、オニウシノケグサ、スイバ、イタドリ、カニツリグサ、エビヅル

★NPO法人久喜の自然を愛する会創立10周年記念式典

ふれあいセンター会議室1と2 2014年11月3日

久喜の自然を愛する会10周年記念式典・記念講演会

※当日を迎えた会場作り

11月3日(月・祝)久喜市ふれあいセンターにおいて、NPO法人久喜の自然を愛する会10周年記念式典が開催されました。松本さんの撮った「久喜市の野草写真」を貼ったり、塚原さん・清水さんの「野草の生花」が会場を華やかにして10周年記念行事に相応しい会場が完成しました。

※式典・講演会

定刻にはご来賓3名をはじめ総勢42名が集うという予想外の盛況でした。初めに会田さんの厳かなる開会の挨拶に続いて藤浪代表からは、会の越し方を振り返りつつ、感無量の面持ちの主催者代表としての挨拶がありました。ご来賓の3氏からは、一人ひとりご挨拶をいただきました。会の10年の活動に心からの敬意を表され、会の今後の発展を期待する温かいメッセージを頂戴いたしました。又、会員でもある梅田市議員も参加下さっておられ御芳名の紹介をさせて頂きました。ここで、井上議長と柿沼教育長は他の行事あり退席されましたが、中島課長は引続き同席される由、皆で拍手を持って送らせていただきました。

※「会の活動10年を振り返って」

藤浪代表より自作の「パワーポイント」を駆使しての報告でした。設立は平成17年6月6日で、中土手で20人参加の野草の観察会のおりであり、中心メンバーは5名であった事、備前堀川と備前前堀川に挟まれた自然一杯の中土手での誕生とは、いかにも「自然を愛する人々の集まり」と思えた。会の活動も、「野草の名前でも覚えたい」とのささやかなものから始まったのが、今では「野草の観察」は無論の事、「野草の保護」「県の依頼での環境調査活動」「小学校のゆうゆう活動を通して自然観察講座の推進」。又、久喜市の春の風物となりつつある、9回を数えた「久喜市の野草写真展」。一般市民も交え、私達の住まう足元の地から七草を摘み「七草粥を食す会」を開催、活動の広がりから現在会員は56名との報告でした。会の名称も「自然観察会」から「自然愛好会」にそして現在の「NPO 法人久喜の自然を愛する会」に変遷。振り返ってこの10年を想う時、会員も入替わりながら56名の新旧様々な会員が、このたびの式典を通して会の活動への思いを共有することが出来た事、大変意義あるものと思いました。

※記念講演「久喜市のトンボと自然」

長須先生より講話を戴きました。長須先生の半世紀にもわたる「植物とトンボ」の足を使った研究の講話を頂きました。

- 1、 トンボの語源は「飛ぶボー」トンボ説・日本国の形に似る「秋津島」・英語では「ドラゴンフライ」飛びながら蚊や蠅等捕食する事
- 2、 トンボの種類は、日本では200種・埼玉では90種・久喜市は45種
- 3、 トンボの一生は、不完全変態と完全変態種あり、サナギの時の有無の差である事。寿命は大体1年であるが、成虫で越冬するトンボもある事
- 4、 トンボは益虫で、英語名「ドラゴンフライ」の通り、飛翔しながら蚊や蠅等を捕食している事
トンボの生態やトンボの種類を学ばせて戴ながら、「トンボの生息できる環境を！！※トンボは環境汚染のバロメーター※」を心に留め、人間の都合を優先する生き方を反省せねばならないと思いました。会の目指すところの“野草の観察を通して自然とのふれあい：人とのふれあい”を大切にしたいと思いました。

次第の最後、閉会の挨拶を、斉藤会員が発して閉会となりました。

会 10 年の歩みを通し、互いに今後の活動に生かして行かねばと、一同想いを新たにし散会となりました。

★N P 式典記念講演会後の祝賀会

式典記念講演会後の祝賀会

平成 26 年 11 月 3 日 (月・祝)

華屋与兵衛にて 13 時開始

式典・記念講演会の盛上がりあり、予定を 30 分遅らせての祝賀会となりました。厳粛で盛会だった式典を終え、その高揚感をそのまま持込み迎えた祝賀会でした。

会の司会進行は、会田さん山中さんの二人でした。又、会計と料理飲物の注文は木下さんと会計兼務で平尾さん担当でした。参加者は 25 名 (男性 17 名女性 9 名) でした。盛上がった式典の感触の儘スタートし、参加者一同お祝い心を高め・懇親を深め・今後の活動へ期待を膨らませる事が出来ました。食事もお茶もお酒も、丁度良い質量で皆大満足でした。さすが平尾会計人ほぼピタリ、さすが木下料理注文人余すことなく頂戴いたしました。有難うございました。

会田さん、司会進行初体験との事でしたが、素晴らしい出来栄でした。ご苦労様でした。

祝賀会を含め、この度の「10 周年式典・記念講演会」は、「NPO 法人久喜の自然を愛する会」にとって記念すべき大きな節目となった様に思います。

★ふれあいウォーク「館林」 城下町館林市と周辺の散策

山谷信義

ここ秋のシーズン恒例化になりつつありますバスハイクですが、今年は 11 月 11 日 (火) 秋晴れのもと参加会員 22 名を載せて久喜駅東口を定刻通り館林市へ向かって発車した。

車中で藤浪代表より、今回見学する田中正造記念館の田中正造氏の生い立ちから足尾銅山鉱毒事件での活動までの詳しい説明がありました。

館林城は 15 世紀に築かれ、徳川四天王の一人榊原康政が石垣や天守閣をもつ近代的な城に造り変えた。その後五代将軍、徳川綱吉を輩出した地として重視された。延宝 8 年 (1,680 年) 25 万石、今は市役所の周辺に城の一部が残る。

まず、最初の目的地、茂林寺、野鳥の森へ、20 体ほどの狸の像が参拝客を迎える、今は狸もエチケットなのか浴衣姿だ、ちょっと前えまでは裸だったので、狸の自慢の大きな (ふぐり) が女性客を驚かせたり喜ばせたりしていました。

野鳥の森は柴桜のガーデンは 25 万株の赤、白、ピンクが咲きほこる花の楽園森のなかでは、冬だけいる (ジョウビタキ) (ツグミ) などの鳴き声が聞けた。

○ブルドックソース館林工場見学

2014 年 7 月・・・日本のソースの年間販売額が約 614 億円のうち 27.2% を販売するブルドックソース。マーケットシアなんと 27.2% は、驚きの数字。新入社員の新鮮、美味しさを「ソースはやっぱりブルドック」と共に歩んで 111 年。本社、鳩ヶ谷、館林 工場が主力、生産ラインは 20 人ほど、完全オートメ化の近代個工場。おみやげは、炒める、煮る、焼く、かけるの便利万能の (うまソース) トマト料理はこれ一本!

○田中正造記念館

公害の原点といわれる足尾銅山鉱毒事件とその解決のためたかった田中正造と地域の人々にかかわる当時 (明治期) の写真や貴重な資料でわかりやすく解説していただく。ここでの生産された銅は日本の

産業改革に、当時欲しくてたまらなかった外貨かせぎに大いに貢献したことだろう！

○昼食 魚又みどり支店（大衆川魚店）

館林は昔から多々良沼に代表される川魚の名産地、最近ではめったにお目にかかれない「うな重上」の昼食、鮎のあらいはサッパリ系で、乞う次回のお楽しみ。

○ 環境科学国際センター（加須市）生態園

かつて里山の自然環境を、生物が住みやすいように、ビオトープ手法で復元しています。野外での観察・作業をとうして身近な自然や自然とのかかわりについて学習できた。（講師 島田研究員）

★シラコバト賞受賞

シラコバト賞受賞と市への報告

10周年を迎えた本会は、シラコバト賞受賞の荣誉に輝きました。

シラコバト賞は「日ごろ、身近なところで、住みよい地域社会を実現するため、積極的な実践活動を地道に続けている個人及び団体に贈呈し、その活動と功績を顕彰するとともに地域活動の促進を図るため制定されたもの」（当日の式典次第より）です。

授賞式は11月14日の県民の日に埼玉会館で行われ、藤浪と長須顧問の2人で出席しました。本会は長年にわたる住よいふるさとを作る活動を認められたものです。表彰状と記念の盾をいただきました。本会の活動がこのようなかたちで認められた事を会員みんな喜び、励みにしたいと思えます。

11月17日には藤浪、宮川の2名で受賞のお礼と報告のため市役所めぐりをしました。当日はアポなしで行きましたが、関係の皆さんから気持ちよく応対していただきました。

市長さんは不在でしたが、副市長さんに面会ができませんでした。議長室では、本会会員の井上忠昭議長さんが気軽に話をしてくれました。教育委員会は菖蒲支庁舎にあるのでそちらに出向きましたが、教育長さんもすぐに会ってくれました。三人とも本会の受賞を心からお祝いしてくれました。その他環境課と地域振興課（コミュニティ協議会担当）にも挨拶して来ました。

これで本会と市当局との関係もまた一步前進した感じがしました。

★県民参加生き物モニタリング調査

前号（22号）でお知らせのように、東地区と西地区に分かれ、5月から野草保護活動日に生き物調査を行っています。9月には、ふれあいウォーク「くりはし」の下見時に南栗橋地区の生き物調査を行い、データを追加する事が出来ました。

調査は26年度から27年度まで2年間行います。26年12月までのデータを取りまとめ、27年1月に1回目のデータを県に報告する事となっています。

★久喜市放課後子供教室「ゆうゆうプラザ」

久喜市放課後子供教室

「ゆうゆうプラザ」での活動

記録担当 宮川

実施月 日	学校名	会からの 参加者名	参加 生徒 数	活動内容
6月16 日(月) 15~1 6:30	東鷲宮 小学校	5名 (塚原・会田・ 平尾・長谷川・ 宮川)	6人	植物観察。①校庭にて、シロツメクサ、アカツメクサを採取名前の由来や利用法②ピオトープにてアサザ、デンジソウ観察、在来種でドクダミ、オオバコ外来種でヘラオオバコ、ホタルブクロを観察採取絶滅危惧種やシダ類の勉強をした。③コミュニティーセンターの教室へ移動し、シダ類の生殖活動、オオバコとヘラオオバコによる綱引き=在来種のオオバコの圧勝、オヤブシラミを洋服に付け増殖の仕方を教えた。
7月7日 (月) 15~1 6:30	東鷲宮 小学校	4名 (会田・花野・ 上原・宮川)	6人	ザリガニ釣り。近くの田圃畦道脇の小川にて、雨模様で釣果を心配したが5~6分後やっと1匹釣れその後は相次いで釣れ、合計25匹釣上げた。生徒も父兄もサポーターも大喜び、自然と共に過ごす喜びの大きさを味わった。中井さんから、飼う時には小石を沈める事「ザリガニは水中で身体のバランスを保つのに小石は無くってはならない物」と説明を聞き皆でビックリ。
9月8日 (月) 15~1 6:30	東鷲宮 小学校	3名 (塚原・斉藤・ 宮川)	5人	葉の形から。学校から隣のコミュニティーセンターまで、道草しながらエノコロクサを採取しながら開始。茎の形から、丸いエノコロクサ、イヌビエ、茎が三角のキンカヤツリ、マメ科の植物で、ツルマメ、クズ、ヌスビトハギ、四角いのはシロ。カヤツリクサを用い2人で茎を裂く時、蚊帳を吊った様になり感動的でした。残念ながら若い母親達は蚊帳を知りませんでした。
9月20 日(土) 9:30 ~11: 30	太田 小学校	9名 (藤浪・長谷 川・会田・井上・ 宮川・塚原・清 水・花野・上原)	13人	木の実ドングリ遊び。学校近くの吉羽公園で、木の実の採取をした。マテバシイ、ツバキ、マッポックリ、スギ、ヒノキを持帰った。教室に戻り①マッポックリをペットボトルに入れる実験を「乾燥すると開き大きくなる、水に浸すと萎み小さくなる生態を実験②どんぐり料理、マテバシイの菓子と茹でた物、シイノミはフライパンで炒った物を用意したが、好評であった。自然からの恵みの体験でした。又、どんぐりのペンダント作りは目を輝かせていました。

実施月 日	学校名	会からの 参加者名	参加 生徒 数	活動内容
9月29 日(月) 15~1 6:30	東鷲宮 小学校	4名 (斉藤・宮川・ 長谷川・花野)	5人	ドングリ遊び。学校から教室まででマテバシイ・マツボックリを集めて貰い、教室へ。①マツボックリをペットボトルへ入れる実験②マテバシイでコマとペンダント作りに挑戦、男の子だけであり特に興味があった様だった。
10月4 日(土) 9:30 ~11: 30	本町 小学校	4人 (藤浪・斉藤・ 木下・宮川)	7人	野草の観察。香取公園の周囲の野草を観察した。「愛宕川」の兩岸を一周しながら、ススキ、ヨモギ、ノブドウ、セイタカアワダチソウ、アレチマツヨイクサ、ミソソバ、マコモ、ヘクソカズラ、シマスズメノヒエ、アキノエノコロクサ、ヒシ、カナムグラ等を観察した。スタート時は関心を持ち観察していたが、美しい花もなく後半は少し飽きた様だ。子供たちは身近な自然に触れる機会が少なくなっている様に思え、面白い企画を交え行わねばと思った。

★新入会員情報 (取扱注意)

滝本満州男 58-5445 今井政男 31-7334

以上2名が我々の仲間に新しく加入されました。よろしくお願ひします。

現在会員数 56名

★今後の日程

七草がゆの会 27年1月6日(火) 9時30分 久喜市民農園「緑風館」

野草写真展 27年3月1日~7日 久喜中央公民館

★編集後記

* 今年の冬、西日本は気温高め 東日本など平年並みと報じられていましたが、年に1度か2度と言われる寒波のため、特に徳島では大雪による大きな被害がでております。これからますます寒くなります。寒さにめげず、頑張りましょう。

NPO法人久喜の自然を愛する会会報 NO2 (通算23)

2014年12月発行

発行 特定非営利活動法人久喜の自然を愛する会

発行人 藤浪 康義

編集人 宮川 俊治

松本 春勇